

将来の酪農の担い手たち

JA計根別青年部(北海道)

研究員 若林剛志

1 JA計根別青年部の紹介

JA計根別は根釧台地の北東部、中標津および別海町にまたがって位置している。根釧台地は北海道の中でも酪農が特に盛んな地域であり、北海道の生乳の4分の1がここで生産される。当JAの正組合員はほとんどが酪農に従事し、この一翼を担っている。

JA青年部は原則40歳未満のもので構成されており、現在69名が在籍している。特徴的なのは、部員全員が酪農に従事している点である。青年部では、1952年の創設当初から受け継がれる互助の精神と将来の経営者としての資質向上に重点を置いて活動している。

JAでは、青年部員は将来の酪農の担い手であり、彼らが将来JA運営の担い手となること、さらには地域のリーダーとして活躍していくことを期待している。もちろん青年部員も、その期待に応えようと努力している。

2 青年部の取組み

青年部の活動内容は多様であり、活動頻度も高い。酪農家は多忙と聞くが、この活動の多様さ、内容の濃さには驚かされる。

活動の柱は乳製品の消費拡大、交流、学習の3つである。乳製品の消費拡大への取組みの中心は、地域イベントの際に作るジャンボハンバーグである。それは1.8×1mの大きさにもなる。ジャンボハンバーグ作り自体は乳製品消費拡大運動ではないが、これに青年部が製造したチーズを載せたり、このイベントの際に実施される酪農および乳製品に関する知識の普及活動が拡大運動となっている。また、ロール看板(牧草ロールを利用した看板)に

よる広報活動も恒例となっている。

交流はスポーツを中心としている。球技大会のほか、青年部内の駅伝部会が中心となって地域の駅伝大会に参加している。

学習は、農協のステップアップ講座(酪農経営にかかる知識の習得講座)への参加が中心となっている。これは将来経営者となることを見据えての活動である。

このほかにも、部員間での牛の角切りや部員が病床にあるときの互助活動など見逃せない活動がある。これらの取組みは、青年部員が酪農という共通軸を持っていることから、

第1表 計根別農協青年部の1年間の主な活動

	全体の活動	ステップアップ講座参加	全体での会議
4月		第1回	通常総会 役員会 三役会・広報部会
5月	祭り参加 (ジャンボハンバーグ作り)	第2・3回	役員会
6月	肥料学習会 バスケットボール大会 新人歓迎会 近隣農協青年部との懇親会		
7月		第4回	三役会
8月	ソフトボール大会 小学生農業体験学習受入れ		役員会・三役会 駅伝部会
9月	祭り参加(3回) (ジャンボハンバーグ作り)		
10月	ソフトボール大会	第5回	役員会 広報部会
11月	ロール看板の設置 ボーリング大会	第6回	
12月	忘年会	第7回	
1月			三役会 広報部会
2月	消費拡大推進会議 農協と青年部との懇親会	第8回	
3月		第9回	役員会 三役会

(注) このほかに道青協および全青協での活動がある。



これが名物のジャンボハンバーグ

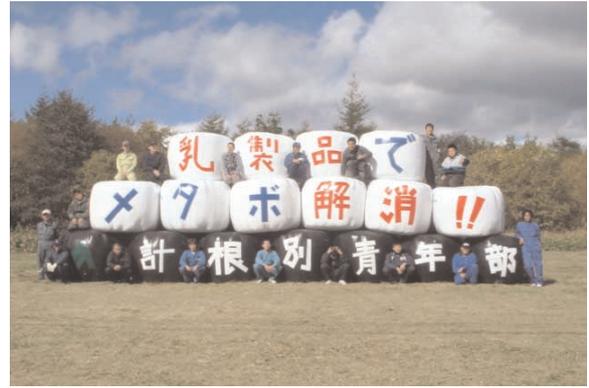
共通の課題および目的を持って活動できるという利点を活かしている。

今回、当青年部に関して筆者が取り上げるのは、酪農経営のための営農計画書の策定活動である。これはJA営農課が主体となって組合員向けに実施しているものであるが、策定に関わるのはほとんどが青年部員であり、将来の酪農経営者としての素養を磨く場となっている。

3 酪農の担い手・JA運営の後継者

営農計画書とは、各酪農経営の年間の活動計画および資金計画のことである。これを策定することによって、「ここを変更すればこれも変わる」、「この作業はこうすればあの部分の経営改善、コスト削減につながる」ということを知ることができる。これは将来の酪農経営者として必要不可欠のものであり、青年部に所属しているうちに経験を積んでおくことが求められる。青年部活動として皆で策定することで理解も速くなるし、これにより現経営者からの経営移譲に備えることができる。

しかし、営農計画の策定においては悩みもある。部員によれば、「便利な表計算ソフトの普及により、作業と経営改善のポイントとの連関が見えづらくなっている」という。手



ロール看板「乳製品でメタボ解消!!」

書きで計画を立案していた時代は、「ここを改善すればこれも変わる」といったように、それぞれの作業と費用の連関が手を動かすことですぐに身についた。しかし、手書き作成していた世代と比べ、表計算ソフトでしか計画を立てたことのない世代は、一部の修正が全体に影響を与えることは分かっていても、具体的にどこに影響するかを理解するまでに時間がかかってしまうという。

最終的には、互いに教え合って実践的な計画を全員が立案できるようにならなくてはならない。部員はこの活動を通じて、互助の精神と将来の経営者としての資質を磨いている。

4 訪問後記

雪が舞う12月に筆者を受け入れてくれたJA計根別青年部。当日は青年部役員にめでたいことが目白押しで、その中でもお子様誕生の知らせは最高のものであった。

さらに筆者が驚いたことは、彼らの腕の太さである。それは間違いなく多忙な酪農家の腕であった。

今、酪農経営は乳価低迷と生産費上昇という厳しい状況下にある。青年部で培った経験を、将来の酪農および将来のJA運営の担い手として是非活かしてほしいと切に感じた。

(わかばやし たかし)

(JA計根別HP <http://www.ja-kenebetsu.com>)